

令和6年度 第3回宮崎県感染症対策審議会 議事概要

1 開催日時

令和7年2月7日（金） 午後3時30分から

2 開催場所

県庁防災庁舎4階43・44号室

3 出席者

(1) 委員

本田 利弘、山中 篤志、吉田 建世、宮崎 泰可、永野 秀子、
野村 美智子、藤本 洋子、本田 憲一、末吉 益雄、杉田 亨一、吉玉 拓
(欠席)
宮原 義久、小嶋 崇嗣、高橋 直樹

(2) 事務局

市成 典文、吉田 祐典、鶴田 隆志、その他担当職員

4 議事

(1) 開会

(2) 福祉保健部次長あいさつ

(3) 審議事項

- 宮崎県新型インフルエンザ等対策行動計画（案）について
吉田薬務感染症対策課長から、資料1、資料2、資料3に従い、説明を行った。
説明後の主な質疑は以下のとおり。

委 員	前回審議会における素案に対する意見が計画案に反映されており感謝申し上げる。
委 員	医療人材が年々少なくなっている中、既存の人材のスキルアップが必要である。計画案は十分な内容となったため、今後は、研修等の実施による感染症対応人材の育成に取り組んでいただくとともに、感染症対策連携協議会等を活用した関係機関間の連携強化や、医療機関等との病床確保や発熱外来等に関する協定締結等による医療提供体制の確保等の本計画に沿った取組を進めていただきたい。
事務局	皆様のご協力により計画案を策定することができた。計画の実効性を高め、有事に対応できる体制づくりのため、引き続き関係機関と連携しながら、人材育成や協定締結等に取り組んでまいりたい。
委 員	資料1のNo.1の意見についても対応いただき感謝申し上げる。次の感染症危機が訪れた場合には、コロナ禍で起きてしまった医療従事者等に対する中傷・差別を防がなければならない。

会 長	資料3の 70 ページのイメージ図について、一部、凡例とグラフの色が違うので統一してほしい。また、同イメージ中における対策なしの場合の折れ線グラフの面積が、対策ありの場合よりも面積が小さく見えてしまう点は違和感がある。まん延防止の対策を講じることによって、折れ線グラフの面積、患者数等が減るのではないと思うが、国の資料を活用しているためやむを得ないものと認識している。
事務局	貴見のとおり当イメージ図は国の資料を活用しており、折れ線グラフの高さを重視して視覚的に分かりやすい図にしたのではないかとと思われる。凡例とグラフの色の統一については承知した。

その他の意見等はなく、案のとおり了承された。

(4) 報告事項

- 令和6年の感染症発生動向等について
吉田薬務感染症対策課長から資料4に従い、報告を行った。
報告後、次のような質疑があった。

会 長	梅毒について、報告数が若年層を中心に年々増え続けており、男女比についても令和6年は女性の比率が高いが、その原因としてどのようなことが考えられるか。
事務局	報告数の増加については、昨年度から医療機関に協力いただき、年2回の無料匿名検査を実施するなど、検査体制や検査数が拡充していることが要因の一つとして考えられる。また、男女比の件については、いわゆる出会い系アプリの利用拡大や、経口避妊薬ピルの服用ハードルの低下など、様々な要因が考えられる。
会 長	検査体制の拡充により感染探知の可能性が広がっている中で、感染状況や原因の分析のため、さらに詳細な情報を収集する必要があるのではないか。
事務局	検査体制確保について検討していく上で参考にさせていただきたい。

(5) 閉会

以上